

## SDGs・目標11 誰もが安全で持続可能な 都市と居住環境の実現



現代の私たちは、一日の約87%を建物の中で過ごすといわれています。そのため、建物内部の環境の質、例えば、空気の清浄度、温湿度などの条件は私たちの健康や快適性、生活の質に大きな影響を及ぼします。

また、快適で健康な室内環境を維持するために空調や照明、給湯などの設備機器を利用しエネルギーを消費することから、現在の世界の温室効果ガス排出量の30%は建築物の運用や建設に由来すると報告されています。

日本では、2050年時点での脱炭素化を目指しています。そのため、建物の省エネルギーや再生可能エネルギーの導入が、大きな社会的課題となっています。最近では、2025年度以降、全ての新築住宅に対して省エネ基準を守るよう義務付けられる法律が成立しました。

これに対し、世界人口の7割以

上を占める開発途上地域の人々は、低い経済水準と同じように、一人当たりのエネルギー消費量は先進国に比べて低くなっています。その一方で、低品質の住環境による健康リスクにさらされています。

日本では国連のSDGs（持続可能な開発目標）といえば真っ先に地球温暖化や脱炭素が注目されますが、こうした開発途上地域の住環境の改善もまた世界の重要課題であり、SDGsには目標11「住み続けられるまちづくりを」が掲げられています。

### 開発途上地域の住環境を改善したい

多くの開発途上国では、経済成長期の急速な都市化により、低品質な住居が無計画に密集した「都市スラム（※1）」の問題を抱えています。

こうした地域では上下水道や舗装道路、廃棄物収集などの公共インフラ・サービスが未整備で、立地する住居も概して粗末です。そのため、高温多湿で生じるカビや微生物・暖房用ストーブの燃焼ガスなどによる室内空気の汚染、夏の高い室温による熱中症、飲むことができない水質の井戸水など、さまざまな問題が存在します。

## SDGs（持続可能な開発目標）ってなに？

誰ひとり取り残されることなく、人類が安定して地球で暮らし続けることができるよう、世界のさまざまな問題を整理し、解決するために具体的な17の目標を示したものです。国連で採択され、国際社会は協力して2030年までにこの目標を達成しようと合意しました。

17の目標は、人権・経済・社会、地球環境など、さまざまな分野に及びます。上で挙げた目標11「住み続けられるまちづくりを」では、誰もが安全に暮らせて、災害にも強いまちをつくることなどを、具体的なゴールに掲げています。

### SDGsの17の目標を示したアイコン

もっと知りたい人は



国際連合ホームページ

